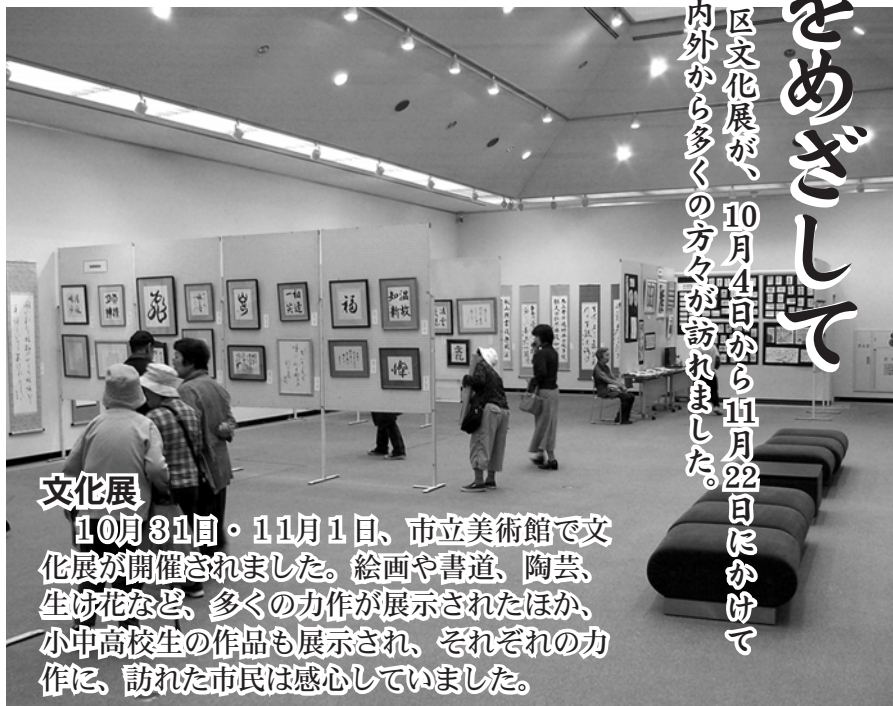
文化・芸術によるまちづくりをめざして

第４回香美市芸術祭・地区文化展が、10月４日から11月22日にかけて開催され、多彩な催しに市内外から多くの方々が訪れました。

芸能大会
10月18日に奥物部ふれあいプラザで、10月25日に保健福祉センター香北の２会場で芸能大会が開催されました。
市内のグループによる舞踊や詩吟、琴の演奏など、日ごろの練習の成果が次々と舞台の上で繰り広げられ、観客から盛んな拍手が送られました。写真は柿の実コーラスによる合唱。

小学生による即売会
文化展初日には、会場前で香長小・舟入小の４年生が、自分たちで育てたもち米を販売し、来場者が次々と買い求めて数分で完売しました。

文化展
10月31日・11月１日、市立美術館で文化展が開催されました。絵画や書道、陶芸、生け花など、多くの力作が展示されたほか、小中高校生の作品も展示され、それぞれの力作に、訪れた市民は感心していました。

物部地区文化展
香北地区文化展

11月14日・15日、物部地区文化展（物部地区公民館主催）が奥物部ふれあいプラザで、11月21日・22日、香北地区文化展（香北地区公民館主催）が市基幹集落センターで開催されました。地域の方々の絵画や書道、写真など多くの力作が展示され、また物産展なども行われ、多くの方々が来場されました。

社交ダンス発表会
11月８日、奥物部ふれあいプラザで開催された社交ダンス発表会には、市内外の社交ダンスグループから多くの参加があり、演技発表後には、プロのデモンストレーションが行われ、観客はダンスの世界に魅了されました。
また、ダンスタイムでは、曲に合わせて来場者もダンスを楽しみました。

物部社交ダンスサークル

短歌会・俳句会（10月４日）の結果は11月号９ページに、写真審査会（10月14日）の結果は今月号の裏表紙に掲載。

香美市文芸 風の流れ

◆一般投稿作品◆ 広報委員会 選

秋海棠浅く根付いて広く咲く　森本 幸美
千の風吹きて紅白さるすべり　有澤 春江
秋台風夢も理想も泥の中　小野寺朱実
露草の花惜しみつつ引き抜きぬ　小原 子川
ドア引けば草群にすだく虫の声　小原 景守
梵鐘の遠音の谺秋の暮　原 美幸
眞夏日に握手求める選挙戦　臼井 幸子
身の錆の疼く夜なりそぞろ寒む　森本 純喜
木犀の匂いに酔いて薪を引く　山﨑 寿美
金木犀子の誕生日祝ふごと　山﨑 貴子
廃校の庭に遊びて赤とんぼ　北村千鶴子
寅彦の旧居ひつそり椿の実　千頭 野草
目鮮やか目白の仲間騒ぐ木木　高野 和一
月の寺廃れる百年太刀踊　福留とものり

◆かがみ野俳句会◆

鳴く鹿のこゑ噎ぶごと屋根に沁む　佐竹 洋子
柘榴の実一粒づつを白紙に　鍵山 和枝
先祖宮茶の花咲いて朝参り　佐藤 幸
己が影昏し寒露の水覗く　古川 信子
膨らみて菊の蒼の色覗く　小松 愛子
厨事出来る幸せ敬老日　利根 弘子
路地多し木犀多し坂の町　中澤 美晴
月下美人一夜美人と名付けをり　森本 倢代
一輌車透かして走る良夜かな　山﨑 鈴子
屋敷跡点し点して烏瓜　吉田 芳

◆韮 句 会◆

露けしや殉教の秘話いまもなほ　公文 春紀
秋まつり故事に倣ひて薦を編む　岡本かほる
茶の花の零れる村の平和かな　高橋 章
縋られつ縋りつ太藺枯れ始む　篠崎 亜希
その服は主の御下がり案山子翁　北村 幸子
護摩跡の空の筒抜け散り紅葉　甲藤 卓雄
鵙鳴くや坂の上なる陶の神　野崎 典子
山里の案山子の背のあたたかし　北村 里子
親と子の心が通ひ稲を掛く　明石 英子
ひょんの笛鳴らし昏れ道戻りくる　竹内 ろ草

◆かほく俳句会◆

秋湿る追剥峠急ぎ過ぐ　乾 真紀子
横倉の峰風そよぐ秋ざくら　岩神 正一
池の月大鯉跳ねて壊しけり　奥宮さとみ
風呂敷の自由自在や文化の日　黒岩千英子
満月やアンパンマンと子等の顔　黒岩 幸女
祝詞の字父の遺品や秋の風　小松 完
案山子翁捨て田の時を知ってをり　小松志津男
柚子絞る四十本の瓶洗ひ　小松 隆之
大色と云ふ色付きの柚子畑　小松 昇
長き夜の話尽きざる母と子と　杉山 春萌
石榴割れ口では言へぬ想ひあり　野村 里史
秋なすび嫁も古びて仕舞ひけり　前田 欣一
喜寿の坂一気に上る月今宵　前田 秀女
眠られぬ夜は鹿笛の澄みわたる　間崎 和代
奥嶺来て冬へ助走の風はやる　森本 之子
山上に立ちて秋天なほ高し　山崎かずみ
水飲場残る馬城跡野菊咲く　山中 晶子
マーチなど一曲も無く運動会　山中 瑞輝
気がかりの用終へ帰路の爽やかに　山中 明石

◆土佐山田町俳句会◆

吟行に来て真っ先に榧拾ふ　明石 韮生
寝ころべば野菊の空のひろかりし　大石 邦男
夜の秋タヌキ油の話聞く　森田 菊恵
雁や十三キロの塩の道　前田 小夜
百合白し骨拾う箸カサと鳴る　中沢としみ
神の留守女ばかりの宴かな　藤野 秋穂
願いごと叶いもせずの大西日　馬場 英男
黙々とまぜ寿しつくる窓に月　安丸 槙子
野地菊の村に移動の図書が来る　前田美智子
霧を来し列車デッキの濡れてをり　西川 常夫
秋暑し砥石に吸わす鎌の水　樫谷 雅道
竹林を溢れて来る曼珠沙華　田村 一翠

今月のキラリ
廃校の庭に遊びて赤とんぼ
廃校の庭を飛ぶたくさんの赤とんぼが、昔にぎやかに遊んでいた子どもに見え、感慨深くなっている。

俳句・短歌の投稿方法
▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。
【投稿先】企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要） FAX 53－5958